©pref kagoshima greboo

第30回国民文化祭・かごしま2015

「第30回国民文化祭・かごしま2015」が平成27年10月31日から11月15日まで、県内全市町村で開催されました。国民文化祭は、全国各地からアマチュアを中心とした文化団体や愛好者が集まり、各種文化活動の成果を発表・競演・交流する国内最大の文化のイベントです。期間中は県内43全市町村で155ものイベントが開催され、県内外から約4万人が出演し、総参加者数は163万人となり、当金庫もオフィシャルスポンサーとして、国民文化祭事業に積極的に協力しました。

吹奏楽の祭典

平成27年11月3日、国民文化祭事業の中でも、最大規模のイベントである「吹奏楽の祭典」に当金庫吹奏楽部が出演し、「精華女子高等学校吹奏楽部」や「ブリヂストン吹奏楽団」などの全国でも有数の吹奏楽の団体と共演しました。また、当日は「おはら祭り」も開催され、当金庫吹奏楽部は第1回目の音楽パレードから連続出演しており、「吹奏楽の祭典」に出演後、今年も音楽パレードへの参加も実現できました。
「吹奏楽の祭典」出演の様子は、後日、KKB鹿児島放送で放送された国民文化祭特別番組「響けさつまの調べ～吹奏楽さきがけの地で奏でるハーモニー～」で放映されました。

「チェスト行け！提案事業」への協力

県民総参加の国民文化祭の実現に向け、県内の文化団体・グループ・NPO法人等が自ら企画・事業化した「チェスト行け!提案事業」44事業も同時に開催されました。
当金庫は、提案事業の一つである「第5回アロハハワイアンフェスティバルin Kagoshima」に協賛、また、当金庫の吹奏楽部が賛助出演させて頂き、県民総参加による国民文化祭の実現に協力いたしました。
今回の「アロハハワイアンフェスティバルin Kagoshima」は27年10月11日・12日の二日間にかけて3つのイベントが開催されました。初日はドルフィンポートかごしまに設置された屋外ステージで、「アロハピクニック」が開催され、そのオープニングを当金庫吹奏楽部がつとめさせていただきました。また、ゆるきゃら「ぐりぶー」も参加、「琉球国祭り太鼓」などのゲストステージもあり、「フラ体験」や「じゃんけん大会」などお客様も参加できるイベントとなっており、多くのお客様が来場されていました。

二日目は市民文化ホールにて「アロハハワイアンフェスティバルin　Kagoshima」が開催され、県内のフラダンス愛好者が日ごろの練習の成果を披露されました。スペシャルゲストとしてハワイから来日されたプロダンサーのフラダンスや日本のウクレレのトッププレイヤーの演奏も行われました。その後、サンロイヤルホテルにて「ディナーショー」が開催され、南国雰囲気満載の二日間となりました。また、当金庫職員も二日間、ボランティアスタッフとして参加し、「チェスト行け!提案事業」の一翼を担いました。
初めて県内で開催された文化の祭典である国文祭も大きな感動を後に幕を閉じました。色々な形で当金庫も深く関わり、改めて地域の発展には文化が欠かせないものと感じました。これからも地域の文化に深く関わっていきます。

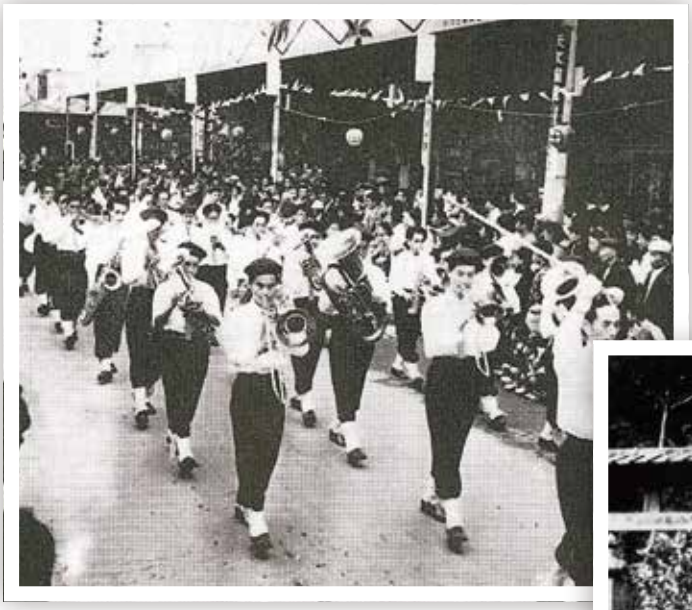
かしんコンサート in みなみホール

平成27年11月7日（土）南日本新聞社みなみホールにて「かしんコンサートinみなみホール～ハワイアンとブラスのひととき～」を開催しました。今回は「国民文化祭・かごしま2015」の開催期間中であり、当金庫も音楽の杜の活動として、国民文化祭を盛り上げるべく、例年開催するチャリティー演奏会とは趣向を変えた形でのコンサートとなりました。

当金庫南栄支店取引先である㈱タイフクの玉利佳久さんによるギター演奏でオープニングを飾っていただき、ハワイアンバンドのハワイアンパラダイス、ナレイアロハ、また、舞台転換時のマジックショーなどバラエティーに富んだ内容となりました。

当金庫吹奏楽部は7チームでアンサンブルを披露し、いつものフルバンドとは一味異なる演奏で来場された皆様を楽しませていました。また、舞踊部のナレイガールズもハワイアンバンドの演奏をバックに華やかなフラダンスを披露しました。

当日、来場された皆様から寄せられた募金は、全額かごしま緑の基金へ寄付致しました。ありがとうございました。また、次回は平成28年10月1日、鹿児島市民文化ホールにて、例年通りチャリティー演奏会を開催する予定となっています。



薩摩バンド（横浜開港資料館所蔵）

吹奏楽さきがけの地
薩摩と鹿児島信用金庫吹奏楽部の歴史

日本吹奏楽の始まりと薩摩 （著：鹿児島市維新ふるさと館特別顧問　福田賢治氏）

明治維新150年"維新のふるさと鹿児島市"より転載

いち早く西洋音楽を導入した薩摩

日本で最初に西洋音楽を導入し、吹奏楽を始めたのは薩摩の軍楽隊でした。薩摩は明治2年、軍学伝習生30人余りを横浜に派遣、イギリスの軍楽隊長ウィリアム・フェントンから西洋音楽を習います。これは、西洋音楽を日本人が本格的に習った始まりでした。幕末には鼓笛隊はありましたが、吹奏楽部はありませんでした。開国により、国家間の儀礼式で国旗を掲げ、国歌を演奏するようになりましたが、日本には島津斉彬が発案した「日の丸」が、国旗としての役割を果たしてはいたものの、国歌はありませんでした。そのため薩摩では、早くから音楽の必要性を感じていたといわれます。そこで、明治2年薩摩の歩兵隊長大山巌などが兵を率いて上京した際、イギリス領事館に依頼して軍学鼓笛隊を中心に人選した伝習生に、西洋音楽を習わせました。

■ 横浜「妙香寺」を拠点に猛練習

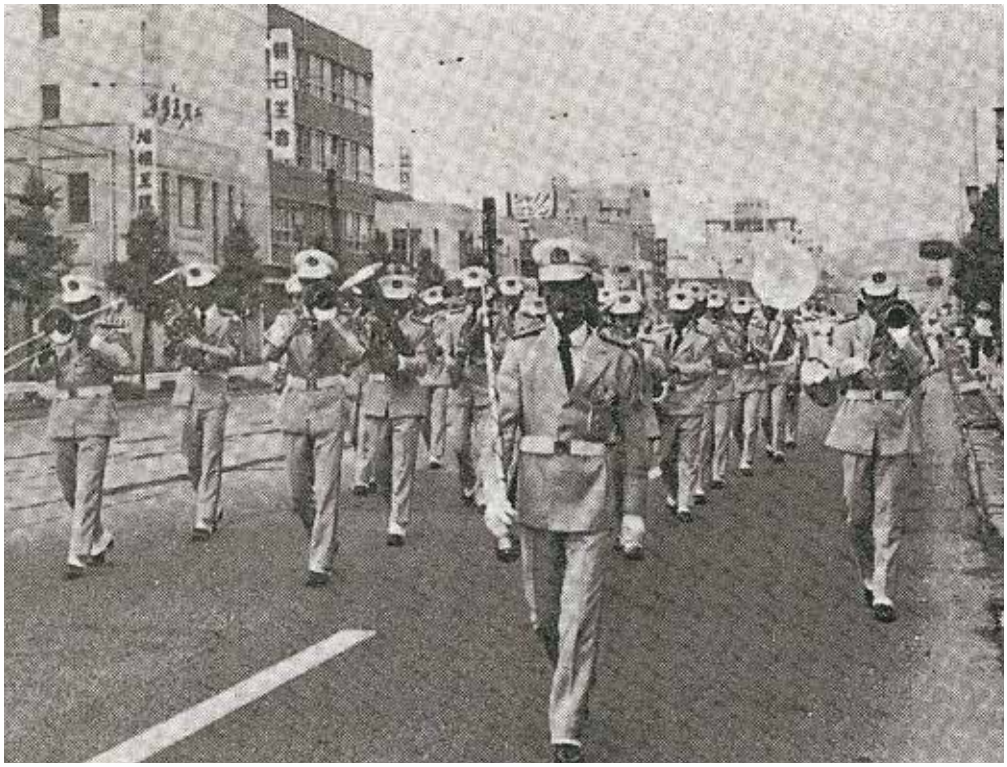
当初は楽譜も読めず、また、楽器もなく竹や鋳物で作った間に合わせの楽器ということもあって上達せず、フェントンからもさかんに叱られました。しかし、薩摩が注文していた楽器が届くと、見違えるように上達したといいます。
こうして日本で最初の吹奏楽団が誕生したのでした。かつて、その練習所であった横浜の「妙香寺」の境内には、現在、日本吹奏楽指導者協会によって建立された「日本吹奏楽発祥地」という記念碑がたてられています。
また、その横には「国家君が代発祥地」という碑も建てられています。これは、日本最初の「君が代」の曲を、薩摩の軍楽隊が演奏練習したことによるものです。

■ 日本最初の「君が代」演奏

明治3年、フェントンが「日本には国歌がないので、歌詞があれば作曲してやる」といったことから、大山巌らが相談し、薩摩琵琶曲の「蓬莱山」の一節から「君が代」の歌詞を選び、フェントンに渡しました。「君が代」はもともと「古今和歌集」にあり、薩摩では歌曲、箏曲、薩摩琵琶曲、サムライ踊りなど身近に使われていました。フェントンがその歌詞に曲をつけ薩摩の軍楽隊が練習し、向島での調練の際、明治天皇の前で披露しました。これが日本最初の「君が代」で西洋調の曲でした。しかし、当時、西洋音楽を聴きなれない日本人にとっては馴染めなかったため、明治13年、楽曲の改訂委員会がもたれ、歌詞はそのままにして日本調を取り入れた現在の「君が代」に変わりました。

■ 「文化の国」薩摩

当時の指揮者は薩摩の鎌田新平や西謙蔵でした。以後、この伝習生の中から、陸・海軍軍楽隊長など、日本の吹奏楽および西洋音楽を牽引する数々の指導者が生み出されました。薩摩といえば「武の国」というイメージが強いですが、日本近代化の先駆けとなり、世界文化遺産に登録された「集成館事業」をはじめ、音楽、洋画、医学、そして国旗「日の丸」や国歌「君が代」の発祥など、薩摩は「文化の国」であるともいえます。



鹿児島信用金庫　吹奏楽部の歴史

鹿児島信用金庫吹奏楽部は昭和10年に創部しました。昭和20年の大空襲で楽器・楽譜全て焼失し一時活動が中断された以外は戦前戦後を通じて吹奏楽での社会貢献活動を継続して行っています。
創部当時は出征兵士の見送りや慰問演奏等を数多く行い、終戦後も鹿児島県の戦後復興に大いに貢献したそうです。また、鹿児島市で開催されている「おはら祭」の音楽パレードに第一回目から連続出場し、第50回記念「おはら祭」において鹿児島信用金庫の踊り連と共に当金庫吹奏楽部も鹿児島市長より功労賞が授与されています。
昭和50年より毎年大型ホールでのチャリティー演奏会を開催しており、慈善会員券の売上金全額を社会福祉施設に寄付を続け、今までの寄付金総額は約2千万円を超える額になっています。
このような永年の社会貢献活動が企業ボランティアの先駆けとして新聞・テレビに紹介されるようになり、平成4年鹿児島県社会福祉協議会より「民間企業ボランティア活動モデル企業」の指定を受けてから活動の範囲も広がり、平成6年には鹿児島信用金庫の永年の社会貢献活動が認められて鹿児島県知事賞を受賞、更に平成7年には「全国ボランティアフェスティバル」において厚生大臣賞を受賞しました。更に、平成10年に県内小学校3・4年生を対象としたボランティア活動の教材になる企業ボランティアの代表としてビデオに出演し、同じ年に第1回「全国信用金庫社会貢献賞・奨励賞」も受賞しています。
当金庫は県内全域に支店があり部員も県内の各支店に勤務していることから、月初めと月末を除く土曜日に当金庫の紫原研修センターに集まって練習を行なっています。
対外的な活動は営業店及び外部からの要請を受けて土・日・祝日県内各地で開催されるイベントにパレードやステージ演奏等を行っている他、吹奏楽部独自でも老人ホームや精薄施設等の福祉施設への慰問演奏活動を積極的に行っています。